宿縁

六月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号
浄土真宗
本願寺派
中原寺
ＴＥＬ〇四七―三七二―〇二九二
ＦＡＸ〇四七―三七二―〇二六二

仏教者として生きていますか
―自分に

去る五月二十日夜に放映されたＮＨＫテレビ『映像の世紀』は「殺人兵器カラシニコフ銃１億丁　戦火と憎しみの世界で巨大化したモンスター」というタイトルでした。

『人類史上、最も多くの人を殺した武器と言われるカラシニコフ銃。８０年前、ソ連で秘かに生まれたこの銃は、誰でも簡単に扱え、故障知らずで、１丁１０ドルから手に入るゆえに、世界に広がったのです。アメリカが敗れたベトナム戦争でも、アフリカの内戦の無差別殺戮でも、そして繰り返されるテロでも、使われたのはカラシニコフ銃だった。コントロール不可能までに巨大化したモンスターの記録である。』

「銃が悪いのか、それとも人間が悪いのか」

この言葉と映像によって伝えられたわずか四十五分ほどの時間は、言い知れぬ恐怖と憂いと問いをもたらすものでした。

そして同時に頭によぎったのは。ブッダ釈尊の真理のことば(教え)です。

『すべての者は暴力におびえ、すべての者は死をおそれる。己が身にひきくらべて、殺してはならぬ。殺さしめてはならぬ』

（第十章　暴力）

『実にこの世においては、およそ怨みに報いるに怨みを以てせば、ついに怨みの息むことがない。堪え忍ぶことによって、怨みは息む。これは永遠の真理である。』

（第十四章　憎しみ）

「映像の世紀」で、ある記者の言葉にも注目させられます。

『十年前、アフリカ大陸を三か月間旅する中で出会ったスーダンの青年。彼には十二歳から三年間、少年兵として戦った過去がありました。「あの頃は、人を殺すことになんのためらいもなかった。ＡＫ―４７を持っていれば、いつの間にか自分が強くなったように思えた。異常な精神状態だったよ。」彼が語るように、銃は人間にとてつもなく暴力的にする力を持っています。ひとりが銃を持てば、対抗するために、周囲も銃を手に取り、それが社会の中で連鎖していく。壊れにくいカラシニコフ銃はどれだけ月日が経とうとも、使用可能な状態で残り続ける。そして、人と人が殺し合い、憎しみ合う悲劇は拡大していく。』

いま仏教者として、一人一人が現実をどう直視し、行動を起こすかが問われます。戦争はすべての人のいのちを奪い、町や村を破壊し残されたものの生活の場まで奪い、戦いはやがて終わります。勝者も敗者もないのに双方の死者は葬られ、生きるためにまた復興に向けた歩みが始まります。時の経過はまたどこかで戦火が起こり殺し合いと破壊が始まります。人類の歴史はその繰り返しなのでしょうか？

心に張り付いているのは、親鸞さまの「**業縁(ごうえん)**＝行為、結果を引き起こすはたらき」による人間の行為の深い洞察です。

『歎異抄(たんにしょう)』は、親鸞さまの教えがその門弟唯円(ゆいえん)によって書き記された有名なお聖教です。誤った考えの生じたことを嘆く思いを述べている後半部分、特に第十三条はとても大事な章です。親鸞さまが唯円に対して語り掛ける問答によって人間の善悪の行為の判定について次のように述べられています。

1、『業縁(ごうえん)なきによりて、害せざるなり。わがこころのよくて殺さぬにはあらず。また害せじとおもふとも、百人・千人をころすこともあるべし』

（どんなことでも自分の思い通りになるのなら、浄土に往生するために千人の人を殺せとわたしがいったときには、すぐに殺すことができるはずだ。けれども、思い通りに殺すことができる縁がないから、一人も殺さないだけなのである。自分の心が善いから殺さないわけではない。また、殺すつもりがなくても、百人あるいは千人の人を殺すこともあるだろう）

2、『さるべき業縁のもよほさば、いかなるふるまひもすべし』

（私たちは、縁にふれたら何をするかわからないものを、みな同じように持っているのだ）

先般カリホルニア州バークレー市の本願寺仏教センターで開催された「日米仏教チャプレンシイの基礎」と題したワークショップでご一緒した大谷大学教授木越康さんは、これからの日本仏教の在り方に言及して「臨床仏教」という言葉を用いられた。その背景に「東日本大震災」で津波によって息子を亡くした母親との交流で「**死んだら終わりですか？**」の問いかけにこれまでと違う戸惑いをもたらすことになったと述べられました。

「あの日、大勢の人たちが津波から逃れる為、この関上中学校を目指して走りました。街の復興はとてもとても大切な事です。でも沢山の人達の命が今もここにある事を忘れないでほしい。

死んだら終わりですか？生き残った私達に出来る事を考えます。」

この、わが子を失った母親の言葉に私自身も息をのまずにおれません。

そして、あなたは仏教者として生きていますか？と死者から問われているのでした。

©2024　Chugenji　All right reserved.

【寺灯雑記】

○暑さの中で清掃奉仕作業

５／４

季節外れの暑さの中、お仏具磨きと清掃奉仕が行われました。多くの方が法要に気持ちよく参拝ができるのも、このような心温まる奉仕活動によるものです。心より感謝申し上げます。

○趣味講座で「一閑張り」トレイ作り

５／４

一年に一度の婦人会の趣味講座が開催され、今回は「一閑張（いっかんばり）」を作成しました。

一閑張とは、４００年前中国から渡来し、日本の良質な和紙を原料にし柿渋などで仕上げた生活道具です。

婦人会の有志の方が講座前にカゴやトレイに細かく割いた新聞紙を貼り、数日乾かしてから、当日自分の好きな和紙を貼りお気に入りの模様の物を作り上げました。同じ和紙を貼っても貼り方や裂き方が違うとまったく雰囲気の違う物に仕上がり、自分だけの作品が完成しました。

作品は、先日の降誕会でも会館に展示して参拝者にも披露されました。

○宗祖降誕会、永代経法要を修行

５／１９

境内がさつきと新緑に彩られた中、親鸞聖人降誕会と門信徒総永代経法要が勤められました。

ご住職が風邪の為急きょ欠勤となりましたが、前住職と衆徒聡明さん、そして多数の参詣者の皆さまにより二法要が無事勤められました。

そして法話された上宮寺前住職の鷲元明俊先生からは、ご自身の行動を通した念仏の行者としての力強いお話を頂戴しました。

【仏事Ｑ＆Ａ】

Ｑ、ご本尊の阿弥陀如来が立っているのはどうしてですか？

浄土真宗のご本尊が立っている姿なのは、じっと座ってはいられないからです。阿弥陀如来は、苦しみ悩み傷つけあう私たちを急いで立ち上がって救わずにはおられないと、いつもはたらきつづけてくださいます。そのお心を立っているお姿で表しているのです。このような深いおぼしめしは、慈悲のきわまりであります。

阿弥陀如来は、あらゆる世界の数限りない生きとし生けるものすべてを救おうとはたらきつづけています。この生きとし生けるものすべてに対し、阿弥陀如来は「必ず救う、われにまかせよ」と、いつでもどこでもよびかけ、いまここにいる私たちを救い取って決して見捨てることはありません。このはたらきを「摂取不捨（せっしゅふしゃ）」といいます。摂取不捨とは、阿弥陀如来に向かうどころか、背を向けて逃げ回っている私たちこそ救わずにはおれないという如来のお心を表した言葉でもあります。ご本尊は、大いなる慈悲のお心と摂取不捨のはたらきそのものを表しているのです。

（『仏事Ｑ＆Ａ　浄土真宗本願寺派』）

【法座・行事のご案内】

○婦人会法座

＊六月一日(土)　一時(御文章に学ぶ)

「五帖第六通の解説」　前住職

○壮年会法座

＊六月九日(日)　三時

「七高僧に学ぶ　天親菩薩」　住職

○子育てサロン(パンダっ子)

＊六月十日(月)　十一時～十四時

○常例法座

＊六月十六日(日)　一時

講師　高見沢孝之師(鎌倉市西教寺)

○門信徒会役員会

＊六月十六日(日)　三時半

ご欠席される役員さんはお寺までご連絡ください。

○親鸞セミナー(無量寿経解説―正宗分**)**

＊六月二十二日(土)　二時

○千葉組仏教婦人会　研修会

＊六月九日(日)　一時

場所：千葉県教育会館大ホール

講師：三遊亭右左喜師匠

「親鸞聖人一代記」

片野聡師

「篠笛演奏」

※参加費無料、ご参加される方はお寺までご連絡ください。

※門徒総代に福島道宏さんが就任

福島佳行さんの死去(令和５年２月)により空席となっていた中原寺門徒総代に八潮市在住の福島道宏さんにご就任(本年一月付)いただきました。

※夏(７／２８)のファミリーパーティー

津軽三味線全国チャンピオンの渋谷幸平さんが出演。どうぞお楽しみに！

【六月の掲示板のことば】

死んだら

終わりですか？

―津波でお子さんを亡くした母親の声

©2024　Chugenji　All right reserved.